



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 日水製薬株式会社

コード番号 4550 URL <http://www.nissui-pharm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 小野 徳哉

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 谷津 精一

四半期報告書提出予定日 平成26年11月7日

配当支払開始予定日

TEL 03-5846-5611

平成26年11月28日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	5,769	△11.3	896	△33.9	1,936	12.6	1,299	21.9
26年3月期第2四半期	6,505	△3.6	1,356	△5.6	1,719	9.1	1,066	62.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	58.01	—
26年3月期第2四半期	47.60	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
27年3月期第2四半期	33,322	—	29,822	—	89.5	1,331.56
26年3月期	32,290	—	29,213	—	90.5	1,304.36

(参考)自己資本 27年3月期第2四半期 29,822百万円 26年3月期 29,213百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	17.00	—	19.00	36.00
27年3月期	—	19.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	19.00	38.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,200	△7.2	2,200	△22.7	3,700	1.5	2,400	4.1	107.16

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	22,547,140 株	26年3月期	22,547,140 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	150,881 株	26年3月期	150,493 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	22,396,450 株	26年3月期2Q	22,396,981 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における国内経済は、緩やかな景気回復の動きが見られたものの、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動からの回復は当初の想定よりも鈍く、また円安基調による原材料価格の上昇など景気の先行きは依然不透明のまま推移しております。

臨床診断薬業界においては、より一層の低コスト化や高性能化を志向する顧客ニーズの高まりにより企業間の競争が激化し、また、産業検査薬業界においては、衛生管理体制の強化を志向する顧客の増加などプラス材料はあるものの、相次ぐ競合参入による業界内の価格競争が進むなど、いずれも厳しい事業環境が続いております。

医薬品業界においては、医療費抑制施策の基調に変化はなく、OTC医薬品の国内需要が伸び悩む状況が続いており、今後も厳しい事業環境が続くことが予想されます。

また、化粧品業界においては、海外メーカーや他業種の市場参入による競争の激化が続いております。

このような状況のもと、当第2四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べ7億36百万円(11.3%)減少し、57億69百万円となりました。利益面におきましては、営業利益は前年同四半期に比べ4億60百万円(33.9%)減少し8億96百万円、経常利益は投資有価証券売却益の発生などにより前年同四半期に比べ2億16百万円(12.6%)増加し19億36百万円、四半期純利益は前年同四半期に比べ2億33百万円(21.9%)増加し12億99百万円となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

臨床診断薬事業においては、昨年の診療報酬改定およびそれに伴う価格競争等の影響を受け、特に免疫血清学的診断用薬分野の商品において販売が低迷したことにより、売上高は前年同四半期に比べ2億45百万円(9.0%)減少し24億88百万円となりました。分野別では、微生物学的診断用薬が8億23百万円、免疫血清学的診断用薬が13億74百万円、精度管理用血清他が1億72百万円、検査用機器および器材他が1億18百万円となりました。この事業の営業利益は前年同四半期に比べ2億5百万円(27.6%)減少し5億39百万円となりました。

産業検査薬事業においては、第1四半期に見られた消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動による粉末顆粒培地等の売上低迷から回復傾向にはありますが、売上高は前年同四半期に比べ50百万円(3.4%)減少し14億15百万円となりました。分野別では、微生物学的検査薬が11億59百万円、免疫血清学的検査薬が1億98百万円、検査用機器および器材他が57百万円となりました。この事業の営業利益は前年同四半期に比べ55百万円(11.6%)減少し4億22百万円となりました。

医薬事業においては、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動からの回復遅れと市況変化の影響を挽回すべく、付加価値提供やEPA商品群の販売力強化に取り組んでまいりましたが、売上高は前年同四半期に比べ3億37百万円(18.8%)減少し14億63百万円となりました。分野別では、医薬品が8億87百万円、健康食品他が5億75百万円となりました。この事業の営業利益は前年同四半期に比べ1億28百万円(39.1%)減少し1億99百万円となりました。

化粧品事業においては、消費税率引き上げ後における個人消費の鈍化から復調基調になってまいりましたが、前年同四半期までの回復には至っておりません。取扱店拡大に取り組んでいるものの影響を補うまでには至らず、売上高は前年同四半期に比べ1億2百万円(20.3%)減少し4億3百万円となりました。この事業の営業利益は前年同四半期に比べ59百万円(37.9%)減少し96百万円となりました。

ただし、各事業に配賦できない支援部門に係る費用等3億61百万円が控除されておられません。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ10億32百万円増加し333億22百万円となりました。主な増加は有価証券4億4百万円、未収入金34億12百万円によるもので、主な減少は現金及び預金8億27百万円、投資有価証券11億36百万円によるものです。

当第2四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ4億23百万円増加し35億0百万円となりました。主な増加は流動負債のその他(未払金7億52百万円)によるもので、主な減少は未払法人税等2億70百万円によるものです。

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ6億8百万円増加し298億22百万円となりました。

この結果、自己資本比率は89.5%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末の現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ8億11百万円(25.3%)減少し、23億95百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、5億66百万円の収入(前年同四半期は10億10百万円の収入)となりました。これは主に税引前四半期純利益19億2百万円に対し、投資有価証券売却損益8億74百万円、法人税等の支払額8億53百万円があったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、9億52百万円の支出(前年同四半期は8億87百万円の収入)となりました。これは主に関係会社預け金の減少による資金の増加4億円、投資有価証券の売却・償還による収入37億32百万円に対し、投資有価証券の取得による支出51億21百万円があったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、4億25百万円の支出(前年同四半期は3億81百万円の支出)となりました。これは主に配当金の支払によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績を踏まえ、平成26年5月8日付「平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」において発表いたしました通期の業績予想を変更しております。

詳細につきましては、平成26年10月9日に公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,168	2,341
受取手形及び売掛金	3,226	2,887
有価証券	513	917
商品及び製品	1,558	1,516
仕掛品	358	394
原材料及び貯蔵品	851	739
未収入金	38	3,450
繰延税金資産	209	193
関係会社預け金	5,188	4,804
その他	90	122
貸倒引当金	△27	△24
流動資産合計	15,176	17,343
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,072	2,012
機械装置及び運搬具(純額)	418	376
土地	2,770	2,770
建設仮勘定	64	117
その他(純額)	43	73
有形固定資産合計	5,369	5,350
無形固定資産		
ソフトウェア	22	25
その他	12	12
無形固定資産合計	35	38
投資その他の資産		
投資有価証券	11,513	10,376
繰延税金資産	-	10
その他	220	257
貸倒引当金	△25	△55
投資その他の資産合計	11,708	10,589
固定資産合計	17,113	15,978
資産合計	32,290	33,322

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,100	1,087
未払法人税等	826	556
賞与引当金	191	202
役員賞与引当金	26	19
歩戻引当金	17	8
その他	482	1,249
流動負債合計	2,645	3,124
固定負債		
退職給付引当金	3	3
その他	427	372
固定負債合計	431	375
負債合計	3,076	3,500
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,449	4,449
資本剰余金	5,378	5,378
利益剰余金	19,041	19,915
自己株式	△97	△98
株主資本合計	28,771	29,645
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	441	176
評価・換算差額等合計	441	176
純資産合計	29,213	29,822
負債純資産合計	32,290	33,322

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位: 百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	6,505	5,769
売上原価	3,127	2,880
売上総利益	3,378	2,889
販売費及び一般管理費	2,021	1,992
営業利益	1,356	896
営業外収益		
受取利息	58	37
受取配当金	87	111
投資有価証券売却益	217	874
投資有価証券償還益	47	-
その他	9	17
営業外収益合計	421	1,041
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	1	0
デリバティブ評価損	56	1
その他	0	0
営業外費用合計	58	1
経常利益	1,719	1,936
特別利益		
固定資産売却益	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
固定資産処分損	0	8
投資有価証券評価損	-	25
特別損失合計	0	33
税引前四半期純利益	1,719	1,902
法人税、住民税及び事業税	655	583
法人税等調整額	△2	19
法人税等合計	653	603
四半期純利益	1,066	1,299

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,719	1,902
減価償却費	176	156
引当金の増減額(△は減少)	△8	22
受取利息及び受取配当金	△146	△149
支払利息	0	0
売上債権の増減額(△は増加)	29	307
たな卸資産の増減額(△は増加)	38	117
仕入債務の増減額(△は減少)	32	△13
投資有価証券売却損益(△は益)	△217	△874
デリバティブ評価損益(△は益)	56	1
投資有価証券評価損益(△は益)	-	25
その他	△95	△76
小計	1,583	1,419
法人税等の支払額	△572	△853
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,010	566
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社預け金の増減額(△は増加)	2,100	400
有価証券の売却及び償還による収入	300	-
有形固定資産の取得による支出	△166	△112
無形固定資産の取得による支出	△1	-
投資有価証券の売却及び償還による収入	470	3,732
投資有価証券の取得による支出	△1,957	△5,121
利息及び配当金の受取額	140	146
固定資産の売却による収入	0	-
投資その他の資産の増減額(△は増加)	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	887	△952
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△1	△1
配当金の支払額	△379	△423
自己株式の増減額(△は増加)	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△381	△425
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,517	△811
現金及び現金同等物の期首残高	3,187	3,207
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,704	2,395

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

① 前第2四半期累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

a. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				
	臨床診断薬事業	産業検査薬事業	医薬事業	化粧品事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	2,733	1,465	1,801	505	6,505
セグメント利益	745	478	327	155	1,706

b. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,706
全社費用(注)	△349
四半期損益計算書の営業利益	1,356

(注) 全社費用は主に支援部門に係る費用等であります。

② 当第2四半期累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

a. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				
	臨床診断薬事業	産業検査薬事業	医薬事業	化粧品事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	2,488	1,415	1,463	403	5,769
セグメント利益	539	422	199	96	1,257

b. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,257
全社費用(注)	△361
四半期損益計算書の営業利益	896

(注) 全社費用は主に支援部門に係る費用等であります。